

平成30年度 第4回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	平成30年11月24日（土）午後2時00分～4時00分
開催場所	市民会館・萌え木ホール
参加者	男性10名 女性 9名 計19名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 （1）小金井市の魅力について （2）フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	（1）「小金井の魅力」 ・道路の整備状況・遊歩道・ごみの分別の取り組み ・緑地（公園）・はげ周辺の自然・野川公園 ・並木がきれいな雄大なまち （2）フリートーク ・リサイクル堆肥について ・駅前への市の魅力を発信できる看板の設置について ・新庁舎の説明会について ・障害者差別解消法の広報について ・障がい者への配慮について ・市民と市長の座談会の若者へ向けた広報について ・駅前再開発事業について・坂の勾配について
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

平成30年度 第4回市民と市長の座談会（懇談内容）

1 開 会

○司会者

皆様、こんにちは。本日はご参加いただきまして、まことにありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます広報秘書課長の天野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

座談会を始める前に確認をさせていただきます。懇談の様子を撮影した写真を市のホームページに掲載させていただきます。写りたくない方がいらっしゃいましたら配慮いたしますが、いかがでしょうか。それから、本日は議事録作成のため録音をさせていただきますので、こちらにつきましてもご了承いただきたいと思っております。

次に、配布資料の確認をさせていただきます。1点目が本日の次第、2点目がアンケート、3点目が平成30年度市民と市長の座談会資料「小金井市の魅力について」、4点目が市のPRリーフレット「小金井市はこんなところです。」という縦長のもの、5点目が「坂と遊歩道マップ」、最後に市制施行60周年記念クリアファイル。あらかじめ皆様のお席にご用意したものは以上6点でございます。このほか、受付にいくつか参考資料を置かせていただいておりますので、ご自由にお持ちいただければと存じます。

開催にあたりまして、事務局よりご説明申し上げます。この座談会は、平成28年度から開始したもので、毎年5月と11月に年2回から4回程度開催しております。本日は今年度4回目、最後の開催となります。市民の皆様の率直な意見を伺いたいという趣旨から、原則、市民の皆様と市長とのフリートークという形で開催しておりますが、本日は、前半については「小金井市の魅力について」をテーマとして皆様からご意見を伺いたいと思っております。

この後の進め方でございますが、初めに市長の西岡より挨拶も兼ねまして、簡単に市政報告をさせていただきます。その後、1時間程度、「小金井市の魅力について」をテーマに意見交換を行い、残り30分はフリーテーマということで皆様から自由にご発言いただき、それに対して市長がお答えするという形で進

めさせていただきます。

なお、本日の終了時刻は午後4時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては速やかにご退場いただきますようお願いいたします。

では、次第に従いまして、市長の西岡よりご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ（市政報告）

○西岡市長

皆様、こんにちは。市長の西岡でございます。金曜日、土曜日、日曜日と三連休の中日の土曜日にもかわりませず、市民と市長、皆様方との座談会にご参加をいただきまして、まことにありがとうございます。限られた時間ではございますが、皆様方と有意義な意見交換をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。この座談会は、私が小金井市長に就任をさせていただいてから、こういった形で年4回開催をしております。今日は萌え木ホールで開催となっておりますが、各地域を回らせていただいております。また、私自身は、市長に就任させていただいて2年と11カ月、来月でちょうど丸3年を迎えるところでございます。市民の方々との意見交換・対話、職員の方々との対話、時に、子どもたちとの対話ということで、さまざまなことに取り組んでまいりました。こういった座談会を年4回。また、小金井市のさまざまな政策の個別の課題に基づいて、説明会を開催したりワークショップを開催したりしています。また、市の職員も、正職員670名、非常勤・再任用・臨職・委託300名で、合計1,000名の職員の皆さんが働いています。その職員の皆様方との対話も大切なので、42課、42グループごとに、月2回ぐらいずつ対話をしておりまして、意見交換をしておりまして、もう一巡終わりをまして、今2巡目をやっているところです。

また、子どもたちとの対話も大切にしていまして、頻繁に土日祝日、よく小学校、中学校、学校公開ですとかいろんな行事に伺うんですが、今、子どもたちと一緒に給食を食べています。14校、小学校9校、中学校5校ございます。そんなにしょっちゅうは行けないんですけども、大体2カ月か3カ月単位で

1校、公立小中学校14校のうち、もう半分は回りました。クラスに入りまして、子どもたちと一緒に給食を食べながらいろんな話をさせていただいています。特に今、小金井では、小金井産の地場野菜、小金井産の野菜を学校給食に活用していこうということに取り組んでまいりました。私、市長に就任する前は3.5%ぐらいの学校給食の野菜、小金井産野菜の活用率だったんですが、平成29年度は9.89%、約3倍に増えました。また、平成30年度、今年度は、1学期の統計ですけれども、去年の倍ぐらい活用しているということなので、さらに数値が上がる。子どもたちの食育の推進でありますとか、子どもたちと農家の方々のふれあいでありますとか、そんなことに取り組んでいるところでございます。

さて、可燃ごみの処理についてご報告いたします。まず、本市の最重要課題の1つが、可燃ごみの処理でございます。日野市と国分寺市とともに可燃ごみの共同処理を行うことを目的として設立した浅川清流環境組合では、新しい可燃ごみ処理施設の建設工事が今進んでございます。2020年4月1日からの本格稼働に向けて準備を進めています。あと1年半後に、日野市、国分寺市、小金井市の市民の方々から出される可燃ごみの新しい焼却施設がいよいよ稼働するということになります。本格稼働の数カ月前には試験運転がいよいよ開始されますので、今、本格的な準備に取り組んでいるところでございます。これまでの処理は、多摩地域のさまざまな各団体の方々に、私たちは平成19年から11年間お願いをしてまいりまして、ご支援をいただきました。やっと、日野市の方々のご尽力、多くの関係者の方々のご尽力によって、新しい可燃ごみ処理施設の稼働がだんだん近づいてきたというところでございます。しかしながら、それまでの残りの間も引き続き多摩地域の方々に可燃ごみの処理をお願いしなければならない状況でございますので、ごみの減量および資源化につきましては、引き続きご協力をお願いいたします。そして、この長年のごみの減量への取り組みが大きな成果も上げています。人口10万人から50万人未満の自治体、全国ではかなりの部分がこの人口10万人から50万人の自治体になると思いますが、ごみの排出量は小金井市がこの中で全国で一番少ない、ごみの量では全国一少ないのが小金井市ということになります。そしてリサイクル率というのがございます。ごみを捨てるのではなく、再利用したり資源化し

たり、このリサイクル率が小金井市は今50.2%で、先ほどの枠組みの中では全国で2位という高さです。ちなみに1位は岡山県倉敷市で54%と伺っておりますので、ぜひ研究をさせていただきたいなと思っております。これは市民の方々やさまざまな事業者の方々のたゆまぬご努力の成果だと思っておりますので、この流れを新しい処理施設が完成した後も、ごみの減量にはしっかり取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年、昭和33年10月1日に小金井町から小金井市となり、市制が施行されて60年の節目となる年でございます。これを記念いたしまして小金井市内では本当にたくさんのさまざまな記念事業、冠事業がずっとこの間、開催をされてまいりました。去る10月7日日曜日には、小金井 宮地楽器ホールにおきまして記念式典を開催いたしました。この日の午前中にはラジオ体操特別巡回というのを行いまして、NHKラジオ放送で朝6時半から生中継されまして、小金井公園で大ラジオ体操大会が行われました。10月7日朝6時集合だったんですけれども、なんと2,800名の方々に小金井公園に集まっていたいただいて、みんなでラジオ体操を行いました。とても天気もよくて記憶に残る記念式典の朝を迎えました。そして記念式典では、630人もの方々にご参列いただきました。功労者の表彰や名誉市民賞を贈呈いたしました。

名誉市民賞は、10年前、市制施行50周年のときに小金井市は初めて名誉市民制度を取り入れまして、初代名誉市民としてお二人の方、スタジオジブリの宮崎駿監督、そして故星野哲郎先生、作詞家のとても有名な先生に、小金井に当時お住まいでございました、名誉市民に就任していただきました。そして新たに小金井市では、この60周年ということで名誉市民選考市民委員会を設置いたしまして、検討を重ね、市議会でのご同意もいただきまして、黒井千次先生という、作家であり、日本芸術院総裁であり、文化芸術の世界で大変な成果を収められる文化功労者にもなられました黒井千次先生、そしてもう一方が毛里和子先生。この方は早稲田大学栄誉フェロー、そして日中問題の権威でありまして、さまざまな書籍を書かれている。そして中国からも表彰されているという、大変、日中問題の権威の方、この方も文化功労者に選ばれた方です。毛里和子さんと黒井千次さんを新たに名誉市民に選定していただきました。毛

里和子さんは小金井市の女性初の名誉市民ということになります。また、お二人とも皇室との関係も大変強く、黒井千次先生は今年1月に行われました皇居での歌会始の儀というのがあるんですけれども、お一人だけ天皇陛下からお呼ばれをして歌を詠むという方が一人必ずいるんですが、今年選ばれたのは黒井千次先生で、歌っておられていました。また、毛里和子先生も今年1月、ご進講始の儀というのがありまして、皇室の方々いろんな分野で大変優れた専門的な見知を持っている方々がさまざまなご講義を皇室の方々にするという儀式があるんですけれども、毛里和子先生は今年、天皇皇后両陛下や皇室の方々に日中関係の現状についてご講義をされたということでございます。

また、この60周年の記念式典に際しましては、小金井市で初めて小金井市の歌、小金井市歌、それから小金井市民愛唱歌という2曲の歌を作成し、発表いたしました。これは林望先生に作詞や曲づくりの全体のコーディネートをお願いしました。林望先生は小金井市の観光大使であり、市民の方でございます。作家でありエッセイストの方です。そして市民参加、市民の方々の声も取り入れまして、すばらしい詞を紡いでいただきまして、信長貴富さんという、合唱界で非常に有名な方に作曲をしていただきました。小金井市民愛唱歌は深見麻悠子さんという若手のすばらしい作曲家の方に歌をつくっていただきました。入り口で流しておりましたのが小金井市歌と小金井市民愛唱歌です。

小金井市は、市の花は桜、市の木はケヤキ、市の鳥はカワセミ、市の虫はカントンでございます。そして小金井市のイメージキャラクターはこきんちゃんですけれども、小金井市の歌を今回60周年記念で初めてつくりました。とてもすてきな歌をつくっていただいたと思っています。この歌が10年、30年、50年、さらに100年と歌い継がれ、親しまれていくことを心から願っています。

また、先ほど映像として流しておりました記念動画の作成も行いました。ぜひ、この機会に皆様方もご覧いただきたいと思いますが、市の歌はホームページから、もちろん無料でダウンロードできます。スマホや携帯にもダウンロードすることができますので、ぜひ親しんでいただけたらありがたいと思っておりますし、記念PR動画につきましても、ぜひご覧いただければと考えてございます。

去る7月3日には、平成30年第2回小金井市議会定例会が、そして10月5日には第3回小金井市議会定例会が終了いたしました。間もなく11月29日から第4回小金井市議会定例会が開会されまして、私ども行政が上程させていただきます予算案や条例案やさまざまな議案についてご審議をいただくこととなります。昨今の中で大変大きな課題といたしましては、第2回小金井市議会定例会では、障害がある人もない人も共に学びともに生きる社会を目指す小金井市条例というものが可決されまして成立いたしました。そして、市制施行記念日でもある今年10月1日にこの小金井市条例を施行させていただきました。小金井市の地域自立支援協議会の方々に大変活発な議論を3年間も継続して続けていただき、そして小金井市が事務局となり、差別解消法に基づき、小金井市は市としての条例を策定いたしました。これから行政としても合理的な配慮、学校やさまざまな公共施設などにおきましても、この条例の理念が生かされたまちづくりに一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。

今日の私の冒頭の挨拶は短くさせていただきました、なるべく市民の方々と色々な意見交換をさせていただく時間にさせていただきたいと思っております。

今日はまず1つテーマがございまして、小金井市の魅力について、小金井市の魅力発信について、いろんご意見やご提案をいただけたら大変ありがたいと思っております。小金井市の魅力といってもいっぱいあります。東京の中心部にありながらも自然環境がすばらしい。水と緑、桜、野川や玉川上水、小金井公園、すばらしい魅力がこのまちにはたくさんあります。大学が高校が多いというのも小金井市の特徴であり魅力です。都心部でありながらも都市農業が活発というのも魅力です。また、小金井市には文化人の方も大変多く、人の魅力というのものもあるかもしれません。小金井市にはたくさん魅力があります。

私自身は、ないものねだりよりも、あるもの探し、そして、あるもの磨きをしましようということと呼びかけています。私たちはいつも日常にあるので、それがいつものことで当たり前だと思っていることが、ほかのまちやほかの自治体からすると、とてもうらやましいと思われることがたくさんあると思っております。特に大学や高校が大変多く、若い方々が多いというのも小金井市の特徴だし、とても魅力です。そんなことから、今、私は市長になってから、大学との連携を一生懸命進めています。既に6大学と包括的共同連携協定を締結しま

した。東京学芸大学、東京農工大学、それから亜細亜大学、そして私が市長になってからは武蔵野大学、そして小金井市内にある総合学院テクノスカレッジ東京工学院専門学校、そしてつい最近では法政大学と協定を締結しました。法政大学は工学部が梶野町にあります。先日、法政大学の田中優子総長と面会をさせていただいて、協定書を交わしてまいりました。

このほかにもたくさんの魅力がありまして、この魅力を市民の方々や市内の方々にしっかりお伝えしていきたいなと思っています。シティプロモーションということなどにつきましても、少し皆様方と議論させていただけたら大変ありがたいし、もっとこういう魅力を小金井市はPRすべきだとか、こういう分野をもっと頑張れる。もちろん行政としてやるべきこともあると思います。行政の施策や取り組みもまだまだ課題山積ですし、道半ばの課題が大変多いんですけれども、今、長年の課題、困難であった課題に我々は一生懸命向き合っているところですので。

つい最近、大変ありがたいといいたまいますか、吉報をいただきました。国の文化審議会というのがございまして、この文化審議会の中で答申が文部科学大臣に行われました。その答申の中の1つに、はけの森美術館というすてきな美術館が小金井にはございます。旧中村研一画伯の美術館、そしてご自宅があります。今の美術館の裏側、北側に隣接している旧自宅、それから茶室がございまして。この古い非常に歴史のある建物で、佐藤秀三さんという有名な方が設計された。中村研一画伯と大変関係があったと聞いてございまして、この2つの建物が、小金井市内で初めてのことでございますけれども、国の有形登録文化財とすべきであるという答申が文部科学大臣に行われました。これまでも大分報道もされていますので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。正式な決定はこの後、文化庁のほうから選定されて発表されると思いますが、数カ月後に正式に発表されると思います。これは小金井市にとって初めての大変ありがたいことでありまして、国の有形登録文化財が誕生したということは大変うれしいことですし、たくさんの方々にはけの森美術館や、あそこはすばらしい国分寺崖線の緑、竹藪があったり湧き水が出たり、小金井の象徴ですよね。滄浪泉園、三楽の森、はけの森の象徴的な場所だと思うんですけれども、これが正式に文化財として登録されるときを皆様と一緒に楽しみに待ちたいなと思ってお

ります。今後、私たちは行政として、この国の文化財を地元でしっかりと保全して、将来に引き継いでいかなければいけないという大切な役割もありますので、そういった点にも取り組んでまいりたいと思っております。

前半は小金井市の魅力について、そして、後段はさまざまな話題について、特にテーマを決めずに皆様方からいろんなご要望、ご意見、市政に関するご意見でも結構です。お寄せいただければと思っております。それでは、今日はどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○司会

恐縮ですが、これからは着座にて、進行させていただきます。では、これより意見交換に入りたいと存じます。

本日のテーマについて、事務局より説明いたします。テーマ「小金井市の魅力について」と書いてある資料をご覧くださいと思います。現在、全国的に少子高齢化が進んでおり、小金井市の人口は今はまだ微増傾向にありますが、近い将来は減少に転じることが見込まれています。4年前の2014年5月、全国で896もの自治体が消滅の可能性がある都市として報告されたことをご記憶している方もいらっしゃると思います。そのような状況の中、持続可能なまちであるため、各自治体でシティプロモーションに取り組んでいるところです。シティプロモーションとは、簡単に言うと、市の魅力を市内外に広く発信することです。そして、その発信は、市内外へという言葉からわかるとおり、市内と市外の2つの方向があり、それぞれ違う効果を期待しています。まず、市内に向けての発信は、地域への誇りや愛着、すなわちシビックプライドを醸成することになります。こちらの資料にも記載いたしましたが、シビックプライドとは、単なるまち自慢や地元への親近感ではなく、市民一人一人が地域を構成する一員であることを自覚し、その地域をよくしていこうとする当事者意識を伴うものと一般的に解されているものです。今回、参加していただいた皆様はそういった意識のもとで参加していただいているものと思っております。ですが、全ての市民の方がそのような意識を持たれているとは限らないと思っております。そこで、市内に地域の魅力を発信することで、今よりもっと小金井市を好きになっていただき、それによってずっと住み続けたいと思うとと

もに、自分の住むまち小金井をよりよくしようという意識を醸成する、それが市内に向けた情報発信の効果として期待するところです。一方、市外に向けての発信は、小金井市の知名度を向上、すなわち多くの人に知ってもらい交流人口の増加を図る、言い換えればたくさんの人に小金井に来てもらう。実際に小金井市に来て、小金井市のよさを実感し、小金井市に住み続けたいと思ってもらう。さらに、市民となった方がシビックプライドを持ってさまざまな取り組みにかかわってくれるという好循環が、市外に向けた情報発信の効果として期待するところです。資料の裏面をご覧ください。本日、「小金井市の魅力について」をテーマに座談会を開催したのは、私どもがシティプロモーションに取り組むにあたりまして、皆様のご意見を参考にしたいということが目的でございます。現在、市ではシティプロモーションを効果的に推進していくために、シティプロモーション基本方針の策定に取り組んでおります。策定にあたりましては、市民意向調査や学生アンケートなども行っているところですが、それにプラスする参考資料として皆様のご意見を伺うものです。

参考にお聞きしたいものの1つは、情報発信する内容です。どんなことでも構いませんので、皆さんが小金井市に住んでいていいなと思っていること、他の自治体の方に自慢したいことなどについてお聞かせいただきたいと思っております。そして、もう一つは情報発信の方法です。どんな方法で情報発信をしたらいいか。今、市が発信している市報、ホームページ、ツイッターについての改善点の提案、あるいは全く新しい方法での発信など、実際にそれが市として実施できるかどうかという点は私どもが改めて検討いたしますので、実現の可能性は気にせず、思いつきレベルでも構いませんので、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

最後になりますが、資料の一番下に60周年記念動画の紹介を記載しております。先ほど開会前にこちらで流していたものになります。こちら、右下のQRコードからこの動画を紹介するホームページのほうに飛べるようになっておりますので、お時間があるときにぜひご覧いただきたいと思っております。

それでは、意見交換に入りたいと思っております。初めに、内容についてのご意見のある方は挙手をお願いします。

ちなみに、こちら、このテーマでやるのが11月の2回ということで、今回

2回目となりますが、1回目のときには玉川上水ですとか小金井桜、小金井公園のフリーマーケット、江戸東京たてもの園、国際交流、小金井 宮地楽器ホール、そのようなものがいくつか出てきたところでございますけれども、皆様の地域の何か、小金井市としてPRしたいようなものがありましたらご紹介いただきたいと思います。

○市民A

ある議員さんの選挙のときのキャンペーンで、小金井の地域格差をなくそうという訴えで運動をやろうという人がいたので、初め、地域格差って何だと思ったら、例えば、吉祥寺あたりまではきれいなまち並みと言うけど、小金井だって、どこもかしこもアスファルトがちゃんと路地まで行き届いてるし、地域格差というのはあまりアピールしても票にならないんじゃないかと言ったら、ああ、そうですか、それじゃあ地域格差を表に出して選挙運動するのはその題材は引っ込めようということになって、確かに小金井市の路地、どんな細い路地でもおそろしく上質なアスファルトが敷いてあるんですね。ああいうところなんかはいいんじゃないですかね。だって、昔は何かごつごつしたようなアスファルトだった。非常に上質なアスファルトができたんですね。あれなんかは、小金井市を歩いていても気持ちいいですよ。そんなところが多いと。

○司会

ありがとうございます。先ほど学生アンケートをやっているお話をしました。が、今ちょうど集計をしているところでして、アンケートの結果でも、特に駅周辺の道路がきれいですとか、市内全般的に道路がきれいに整備されているというご意見もいただいているところです。一方で、道が狭いとかそういったことも意見として出てはいるんですけども、全般的には、道路整備については、いい意見が多かったという状況がございます。これにつきまして、市長のほうから何かあればお願いします。

○西岡市長

道、道路、これはもちろん重要だと思っけていますし、小金井市の道で特徴があるのは、街路樹の種類の数です。正確な種類の数は忘れましたが、相当あるんですね。小金井市内、これは都道も市道も含めて種類が大変多い。これはほかの自治体よりも非常に特徴ですねということを知ったことがあります。街路樹も、ケヤキ、桜、ナンジャモンジャ、たくさんの種類がありますね。今、道路の路面のことを主におっしゃっていただいたと思いますけれども、歩いて楽しい道、まちづくりというのがやっぱり大事ななと思っけています。そんな中で課題として出てくるのは、でこぼこ、それから車椅子や乳母車などが通るときに段差、それからよくご指摘されるのが、小金井市はまだ道路の補修に十分予算が回ってないんじゃないですか、もっと充実させてくださいというお声もいただきます。安全性とか快適性とかということもありますけれども、魅力である街路樹を大事にしていきたいなと、種類の多さを大事にしていきたいなと思っけています。桜を植えてくださいという声はとても強いかなと思っけています。この街路樹の選び方も、沿道の方々や町会自治会の方々や商店街の方々と、これまでいろんな意見交換を重ねながら対応してきました。今から新たにできる街路樹の場所というのはそんなにたくさんはないんですけれども、最近やったのは3・4・12号線、連雀通りから第一小学校を左折しまして、庁舎建設予定地を通過して、ガード下、高架下を抜けて、そして北大通りに向かう道がございますよね。途中、オーケストアがあつたりします。あそこは、これからさらに電線が地中化されて、歩行空間が大変広く、そして将来は庁舎、(仮称)新福祉会館にアクセスする重要な幹線道路になります。あそこに6本の桜を植えました。この桜は、玉川上水沿道に280年前に植えられた国の名勝小金井桜の後継樹、その流れをくむ山桜を6本植えました。さらに近くにベンチも置かせていただきました。歩道が広くてとても好評なんですね。ある方は、あそこの空間とてもいいですね、桜も植えて、これから10年、20年たつと楽しみですねと。中には、とてもいいところなので、歩道にトイレを置いてくださいという要望もいただいたわけがございます。実はトイレの設置はなかなか難しいんですけれども。全てというわけにはなかなかいきませんが、現在、拡張工事などを行っている道路などにつきましては、快適性でありますとか安全性でありますとか、そういったことに取り組みたいと思っけています。特

に私が力を入れてこれから取り組まなければいけないのは、段差の解消、あるいは傾斜。やはりさまざまなお立場の方、あるいは体にハンディのある方が快適に歩けるような空間が必要だと思っています。また、足の不自由な方もいらっしゃると思いますので、杖をついている方々も歩けるような道を意識してしっかりとつくっていかなければいけないと思っています。ただ、どうしても限られた予算というのがあるので、それも計画的に整備をしていかなければいけないと思います。小金井市としては、道に関していいますと、私としてはまだまだ課題が山積していると思っておりますので、一生懸命努力していきたいと思っております。

○司会

今、道路の整備というお話をいただきました。こういった小金井の魅力というところで投げかけますと、最初に私が例示したように名所だったり催し物が多い中で、こういう、なかなか行政側で気づかないすばらしい意見だと思えます。

何かほかにありますでしょうか。

○市民B

今日2回目、昨年参加させていただいて、昨年は市民の皆さん、市長さんをはじめ、どんなふうに参加されてるのかなということを勉強させていただきました。今日、今年初めて、まあ2回目なんですけれども、昨年よりも、マロンホールでの緊張感よりもここでの緊張感がほぐれて、やっぱり回数を、まず足を運ぶということが大事なんだとつくづく思っております。こういう会を設けていただいて、とても市民としては、特に私なんか年齢が高くなってきておりますので、いい刺激になって、市報をよくよくと見る、それから今日に向けて何をしなくちゃいけないかということを考えるということで、非常に老化を防いでいただいているなと思っています。小金井の魅力云々という感じで、ちょうど都民になって55年なんですけれども、こちらの市民になってまだ20年ぐらいなんですけど、ようやく、あちこち歩きまして、魅力……。巷で聞く話は、魅力というか、他の市の人から、何で小金井の市のごみの問題、できない

のなんていうことばかりで、そこばかり見るんじゃなくて、改めて今回、魅力というのが出てきたので、あ、これはちょっと角度を変えて見ようと思いましたが、あるわあるわで、私の視線ですから、これが全ての市民の方に通用するとは思いませんけれども、私自身は、今、道が出てきましたけれども、遊歩道がありますね。私はまだ遊歩道というのは、きちんと歩いているのは、桜町に住んでおりますから、小金井街道からちょうど競技場の通りまで出る、そこからまた本町住宅のほうに行くところの遊歩道しかしっかり歩いてないんですけど、ここから、在職中もそこは自分の気分転換になる場所でしたし、それから、どなたが管理してくれるのか、四季の花々があちこちに自然に植えられていて保全されているんですね。それから、あと前原町にこのごろちょっとおりました、前原町にも行きましたら、やはり遊歩道がありました。あ、ここにもあったんだということで、かなり前には歩いていますけれども、ここもまた桜町界限、本町界限の遊歩道と違った、とてもよさがあります。そのまま自然を残しているというのはもっと深いんでしょうかね。そして、農家に突き当たったら、そこには何と、ものすごくすてきな農家があって、自分のふるさとを思い出しましたけれども、また行ってこようかななんて思っております。

もう一つは、すごく長くなって申し訳ないんですけど、ごみ問題もあるんですけど、すごくまた利点だと思うんですね。うちの夫とよく言うんですけども、ごみ分別のしおり、これは他の市にとっても誇れるものだと思います。そして、これは、多分カレンダーもそうだと思うが、ものすごい苦勞してつくったんだろうなという、その努力がにじみ出させてもらって、今きれいなまちづくりを、また、自分では、ごみを少なくということで努力して、とても快適に過ごさせてもらってる一面かなと思います。

あと、ミニ公園ですね。このミニ公園は結構あちこちにあるので、50年以上住んでいる方にお聞きしたら、何軒か住宅が建つとそこに小さな緑地をつくらなければいけないというような、これは市長さんにお聞きしたいんですけど、何か市の独自の政策があるのかなということで、詳しいことは聞いてないんですけど、本当に目を見張ってみると、あちこちにあります。例えば、私の住んでいるマンションの近くにゆずりは公園、あるいは桜町本町公園、あるいは梶野町に行くほうに、五日市街道沿いに、さくら公園とかカバ公園とか。子ども

たちにはカバ公園となってるようですね。そういうふうには本当に小さな公園が、これもまた魅力の1つだと思いますね。

だから、観点を変えて見ると、確かに一方ではものすごく頭にきてることもあるんですけども、今言ったような、とても気持ちを穏やかにさせる環境がものすごくあるなということをお互いに自慢したいですね。豊島なんかにいる友人にも、この間、美術館も参観してきまして、先ほど市長さんからお話があった美術館にもう一回、はげの森は二、三回行って、豊島区の美術館とどういう違いがあるかなんていうのもまた探究してみたいななんて思っております。

あまり独占してもあれですので、これで一応閉じますけれども、そんな魅力がいっぱいある市だということは、お互いに角度を変えて見ませんかということで投げかけておきたいと思います。

以上です。

○司会

ありがとうございました。今、大きくは3つ、遊歩道について、それから、ごみの分別について、3つ目に、公園・緑地についてということかと思っております。一つ一つ整理したいと思いますけれども、遊歩道について、前原というか、水路沿いのわきに小さな川の湧き水が流れているようなところかなと思うんですけども。

○市民B

そうですね、そこです。

○司会

遊歩道につきましては、今日、資料でも「坂と遊歩道マップ」というのを配っておりますので、後ほどそちらにつきましても市長のほうから何かあれば説明してもらいたいと思いますが、2点目のごみの分別についてでございます。ごみについてはご存じのとおり、今、小金井市では焼却炉がない状況でございます。ごみの分別というのは焼却炉の機能によって若干分け方が違ったりするところがございます。小金井市の場合は、いろんなところでごみを処理して

いただいている関係で、いろんな炉に耐えられるようにということで、おそらくほかの市に比べると分別がすごく細かくなっていると思います。それが逆に分別の仕方が詳しく書かれているということで、今、市民の方から評価をいただいたのかなと思っております。

3点目、公園・緑地につきましては、今、本市のほうで公園のあり方について検討しているところでございますので、そちらにつきましても市長のほうからこれから詳しく説明していただきたいと思っております。ではお願いいたします。

○西岡市長

大変貴重なご意見をいただきありがとうございます。たくさんの課題を小金井市は抱えています。そして、さまざまな指摘、ご意見をいただいておりますが、今日は魅力というテーマなので、このテーマでちょっとお話をします。

遊歩道、小金井市は実はたくさんあるんです。資料の中にあるこの「坂と遊歩道マップ」をご覧ください。ただ見たらと思うんですけども、遊歩道というのはもともと水路だったところなんです。新田開発が行われて、玉川上水からの湧水、千川からの湧水など、その水道だったところが、今も使っておりませんので、遊歩道に整備をしているところがあります。全部ではございません。小金井市にはかなりの数の遊歩道がございます。これは散歩したり、ワンちゃんの散歩したり、市民の方々の潤いと安らぎ、くつろげる場所です。もう少し管理をしっかりしてくださいねという声も若干あるので、その辺は課題なんですけれども、たくさんの方々に、この遊歩道を整備しましたので、ぜひ活用していただきたいなと思っております。

それから坂も、坂というか、私もずっと坂下、前原町に三十数年、今、貫井南町に住んで8年目、私はずっと野川の近くに住んでいます。坂は日常のものですが、この坂の魅力というのもありまして、坂にはそれぞれ名前がついていますし、歴史がありますし、景観もありますし、また小金井は国分寺崖線というところで、四十数本の坂が小金井にはあるんですね。階段も含めると46本ぐらいだったと思いますけれども、この坂も、もちろん上るのは大変だというご意見がありますけれども、この坂も小金井市の特徴ですよ。切っても切れない小金井の地形です。なので、こういった遊歩道のすばらしさを

知ってもらうために、こういった遊歩道マップ、坂道マップというのをつくって配布をしています。市民の方々にはぜひ散策などを楽しんでもらいたいと思っていますし、中には、遊歩道に限っているわけではありませんが、花壇などを町会自治会、市民の方々のボランティアで管理をいただいている場所もあります。とてもきれいなお花を咲かせてくれています。こういった取り組みは大事にしていきたいと考えております。

それから、ごみの分別ですね。今、ごみの分別は、13品目に分けていただいています。分別をあまり細目にしていない自治体から小金井市に転居された方は相当驚かれるようです。そういった声も聞きます。しかし、これは小金井が平成19年、二枚橋の焼却炉を停止してから小金井市が歩んできた道のり、歴史の中で、可燃ごみについては自前の焼却施設を持ち得ておりませんでしたので、多摩地域の方々にご支援をいただけてまいりました。したがって、ごみの減量というのは小金井市の大きな課題だったんですね。これは本当に市民の方々と民間事業者の方々のご努力によってなし得たことで、先ほど申し上げましたように一定の人口規模ではありますが、小金井市がごみの排出量が全国で一番少ない。そして、リサイクル率も50.2%で全国で2位というのは大変誇れることだと思っております。これは小金井市の、ごみの問題に苦しんだ小金井市ですけれども、今後はこういった環境、資源循環型の地域を目指して取り組んでいるということ、小金井市の魅力といたしまししょうか、市民の方々に、シビックプライド、こういったことにつながる取り組みにしていきたいと思っています。特筆すべき話をしますと、実は小金井市にたくさんのスーパー、お店があります。リサイクル推進協力店制度というのがありまして、皆さんもうご存じだと思うんですけれども、そのお店で販売した発泡スチロールやペットボトルやトレイ、さまざまなものをお店の方々に自主回収していただいています。その自主回収したものはその企業の方々が独自で処理していただくということになりますけれども、この取り組みがすごいらしいですね。小金井市以外の店長さんとして経験した方が小金井市の店舗で店長さんに就任されてまず驚くのは、市民の方々の持ってこられる量の多さが今までの自治体では経験したことがない、もう何倍もの自主回収に協力してくださる。牛乳パックですとか。これはすごいですねということで、店長さんたちはみんな驚いてい

ます。これは市民の方々のごみ減量への取り組みの意識の高さだと思っておりますので、これは小金井市としてはこれからも大事にしていかなければいけないなと思っております。また、最近のごみで申し上げますと、枝木・落ち葉などいわゆる植物系といいたいまいしょうか、枝木、剪定枝などを平成29年度から、今まで申し込み制で出していたんですけれども、これを戸別収集することで資源循環型の処理に展開しまして、今は牧場などでの下地になったり、チップにして道に使ったり、あるいはバイオマスの燃料に使ったりということで、小金井市民の方々から出される枝木、剪定枝などについては、可燃ごみにせず資源として使っています。このことによって500トン前後、ごみのさらなる減量ができました。これはとてもいい取り組みができたかなと思っております。そして、これからも続けていきたいと思っております。

また、公園についてです。小金井市は、まず大きな公園がありますね。小金井公園、武蔵野公園、野川公園、これはいずれも都立公園です。そして、市内には梶野公園や栗山公園があります。ご指摘いただいた、いわゆる開発行為に基づく提供公園と言いまして、一定規模以上の住宅やマンションを建設する場合には、一定規模の公園を整備するという、これは小金井市独自のものではなくて、都道府県によって若干差異があるかもしれませんが、全国的な制度でございます。このたくさんある小さな公園、二百数十カ所あったと思っておりますけれども、この公園をととても親しみを持って使っている方もいる一方で、全く使われていない、そして管理もなかなか行き届いていない、ちょっと暗くて怖いとか、そういう公園もございまして、今、実は公園のあり方ワークショップというのを開催してございまして、これまでに3回開催させていただきまして、いろんな意見交換をさせていただきました。ですから、今後、公園のあり方、これはもちろん公園そのものの機能もありますが、公園の地域的な配置、一人当たりの市立公園面積にも地域的格差がありますし、公園の少ないところをどう増やしていくのか。あるいは、最近では園庭のない保育園が駅周辺に増えています。これは待機児解消ということで私が市長に就任してから保育園をかなり増やしました。定数も、平成27年2,007人だった定数が、来年平成31年4月には3,000人を超えます。ですから、この3年間で1,000人の、2,000人だった定数が3,000人ということになります。駅周辺の保育園

を希望する方が多いんですね。通勤途中でお子様を保育園に預けていきたいという方が多いですね。駅周辺になりますと、どうしても園庭がない保育園が誕生します。もちろん、園舎の中でいろいろなことに取り組んでいると思うんですが、その子どもたちは天気のおときは毎日お散歩して公園に行きます。その保育園の子どもたちが利用できる公園をこれから考えていかなければいけないと思っています。また、この公園のあり方ワークショップでもいろんな意見が出されたと思いますので、そういった市民の方々のアイデアや声も大事にしながら公園をつくっていくことになります。小金井市が、1つの旗印として、水と緑と桜と公園のまちというふうに市内外の方々が思っただけのような、そういうまちづくりを目指していきたいなと思っていますので、もし何かご提言がありましたらお寄せいただければと思います。

以上です。

○司会

ありがとうございました。では、次の方をお願いします。

○市民C

最初に観光というか、そういうほうから入りましたので、それに関して提言というかお話し申し上げたいと思います。

私は小金井市にとって、東中野図書館友の会の会長をやっておる者でございます。具体的には、向こうの公民館で文化講座を基本的に月1回やるというのと、年4回、4・5月と秋に2回、東京都下のいろんな歴史探索ということをやっています。11月3日には、その一環として小金井をやりました。国分寺崖線の魅力を取り上げてということで、まず滄浪泉園から始まって、ずっとはけの道を下って、中村研一はけの森美術館、午後は多磨霊園の、亡くなった人を、政治、文化にかかわった人を訪ねる。そういうことをやったんですけども、新たな対外的に観光でインパクトがあるとなると、私はそれ以外にはそうはないと思います。それでやった中で、従来から思っていることですが、3つほど大きなことがあって、1つは最初の滄浪泉園、これは、滄浪というのを発見したのは私であって、私自身が発見したんですが、野外……、自然教育園

か何かあるところからのぞいたら滄浪が見えたんですね。あ、これこそ、この間から見る滄浪、青い澄んだ湖ってこれだなと思って、逆に外からおもしろいと思って、金もかかるかと思ったんですけど、今、年寄りはいんですね、50円ぐらいで行けますね。それで中へ入って今回は案内した。そうすると、水がちょっと濁りぎみなので、あれは、あそこの職員の方に言ったんですけども、ボランティアでもいいから年に1回くらいは水の入れかえができないかなと言ったんですね。職員に言っても難しいかもしれないけれども、そういうことを言いました。それで、大事なのは、崖線ルート of 歴史自然探索の最初が、私は、小金井市じゃなくて国分寺の殿ヶ谷戸なんですね。殿ヶ谷戸は、この間、行ったらものすごい金がかかって、手入れがいつて、素人目には気持ちがいい、手入れがうんといってるなど思いましたけれども、逆に翻って滄浪泉園に行きますと、自然が残って、逆にほんとの意味の国分寺崖線の昔を伝えるすばらしい湖だなと思いました。だから、ああいう歩き方をしている中では、対照的に、国分寺とか近隣と連携しながら、逆に、あのお客さんをこちらへ呼び込み、流していくというのが大事だと思いました。それが1つです。

それからもう一つは、当然、途中、いろんな、念仏坂あり、皆さんの言う小さい何とか公園、もくば公園もあり、みんな楽しんで、途中、野川沿いの南北朝の歴史のあるところですね。あの碑をめぐって、それから肝心の金蔵院のところに行きました。金蔵院の境界は小金井小次郎あり、金蔵院そのものあり、大事な谷口邸ありですね。谷口邸について、キンヒバリの里というのをやりますけれども、あそこはやっぱりもっと都にも働きかけて、力を入れて、土日開放とか何とかもっていきながら、そういう都民が楽しんでくれる場合の、どなたか手入れしてたけど、あそこに東屋というか休憩所が欲しいねって。まあ、おトイレは別として。ちょっと腰をおろすところだと思いますけれども、それに関しては、今回、議会にもお話し申し上げるとか言ってましたけれども、谷口さんの後の奥さんの土地がありますね。あそこの買い上げ問題について、まず基礎の部分ですから、ぜひ市長さんもお理解いただいて、それに都市化してどんどんどんどん便利で立派なまちになるけれども、逆にそういう残された緑の、自然のすばらしいところを、我々流通業で働いた人間で言うとブラッシングをかけるという必要があると思いますね。それから、あの場所は小次郎のあ

ったところなので、何か小次郎のわらぶき住まいだったというものを再現できんかなど。〇〇さんに冗談言ったりしますけれども、冗談じゃなくて、結構金がかからずできる可能性があるんで、そういうことも考えてほしい。

それから、3番目に大事な、はけの森美術館のそれは、今回聞いて非常に頼もしく思ったんですけれども、その活用ですね。美術館をもっと、肩肘張らずにもう少し、建物の中の、前、奥さんが住まったところを本屋にさせてますけれども、そういうところを有料でもいいから活用して、自然ミーティングをやる、あるいは町内の人にはいろんな機会に使ってもらう、金をとって。それから、登録文化財になったと聞きましたけれども、あのレストランのあるところだけでしょうか、それとも花侵庵の茶室もそうなんでしょうか。ならば、前から言っておる、茶室をたえず有料でいいから開放して、それこそ金かけてくたびれをとめるよりは、ふだん使っておると建物も生きていいと思いますので、教育長はやるやる言いながらちっとも進んでないので、そういうのを見てますと、早くそういうことをやることによって親しまれる登録文化財になるんじゃないかなど。これはそうしないともったいないなと思います。大きなその3点。

○司会

ありがとうございます。国分寺崖線、いわゆる地元ではけと呼んでいる地域、おっしゃるとおり小金井市では一番の名所だと思います。それについて、滄浪泉園、国分寺市の殿ヶ谷戸公園なんかも含めた近隣との連携、それからキンヒバリの里ですとか、あと美術館の話も出ましたけれども、今あるものの有効活用について考えないかというようなご意見かと思います。これにつきまして市長のほうからお願いいたします。

○西岡市長

ありがとうございます。主に国分寺崖線、はけの道、はけの森にまつわるお話をいただいたと思います。

北には玉川上水、小金井桜、小金井公園、そして江戸東京たてもの園という、一番の小金井の人が集まる博物館がございます。線路の南側には野川、国分寺崖線というところが小金井の1つの魅力です。

滄浪泉園につきましては、2年前から整備をしまして、遊歩道、歩道の整備などを行わせていただいて、大分快適になりました。今度、新聞で見ましたけど、野川公園にある3つの池をかい掘りするみたいですね。吉祥寺の井の頭公園の池をかい掘りしたときは大変ニュースになって、いろいろなものが出てきたと。滄浪泉園についてもおそらくそういうことをしたほうがいいよと、水質をきれいにしなさいというご指摘ですよ。

○市民C

そうですね。濁ってますからね。

○西岡市長

これはちょっと担当との者とも相談をさせていただきたいし、効果があるようであれば、どういうことができるのかですね。

○市民C

あれは、ほんと滄浪ですね。あれこそ、あの色、見ると滄浪。

○西岡市長

すばらしいですよ。滄浪泉園、実は小金井市の公園は、今までやってなかったんですが、映画やCMやドラマの撮影に、ロケ地として有料でお貸し出しをできる条例を1年ほど前につくりました。今までそういうルールがなかったので都度都度判断していたんですが、この条例をつくったところ、随分問い合わせが来ているようでございます。滄浪泉園も、あそこはそういう舞台としてもとても価値のあるものかなと個人的はいつも思っているんですね。いろいろと有効活用していただきたいなと思っていますので、池の水質、かい掘りという点についてはぜひ検討させていただきたいなと思います。

それから、谷口邸の庭園につきましてはご要望として承っていました。この点も、前々から私も聞いてますので。小金井小次郎さんという方、皆さんご存じですか。幕末の大任侠ですね。子分が3,000人ぐらいたという説もありますが、本名は関小次郎さんで、今の谷口家のところに関家のおうちがあっ

て、そこで生まれた。とても勉強もできた方だと伺っています。それで三宅島との交流関係のきっかけをくださったのが小金井小次郎さんです。土木工事などの知恵もあったということで、三宅島は水に苦しんだ島なんですね。ですから井戸をつくられたんですね。島の方々にとても親しまれ愛されたと聞いてございます。小次郎さんの生家を復元してみてもどうかということだったので、ご提案として聞かせていただきたいと思います。

それから、先ほどのはけの森の件、もう一度申し上げますと、こちらが図面なんですけれども、今あるはけの森美術館の裏側に、はけの森カフェ。今、カフェになっています。ここが中村研一さんのもともとのご自宅だったところ。その西側には茶室があります。この2つの建物が国の有形登録文化財に登録すべきという答申を文部科学大臣に提出されたということになります。私としては、市民の方からもこの茶室が使えるようになったらいいですねというお声は前々から聞いていましたので、今回、登録有形文化財に指定されたことを1つの契機といたしまして、今後この活用方法については検討したいと思っておりますが、今の状態では全く使えません。ほとんど手を入れていませんので、相当傷みがあります。ですから、どういうことができるのか、また、どれぐらいの整備が可能なのか。そもそも大変古い建物なので、整備もどこまでできるのかということがあるので、今担当と話をしているのは、これから有効活用に向けた調査検討をぜひ始めてみようということは議論しています。また、はけの森カフェは、とても人気がありまして、たくさんの方にお越しいただいています。地元のお野菜を使ったおいしいお料理を提供してくださっていただいて、とてもすてきなところなんです。最近あそこではミニ音楽コンサートをやったりワークショップをやったり、はけの森美術館の企画と連動したさまざまなイベントをやっていたりしています。申し込みをすると貸し切りでも使える。それから市民の方々と、市民団体、市民グループでお食事会やお茶会や会議をしながらそういった有効活用もいいのではないかなと。場所がとてもすばらしいところなので、ぜひご活用していただきたいと思います。また、はけの森カフェは2階があって、今まで2階は全く有効活用してなかったんですが、2階も利用できるようにきれいに、整備といいましょうか、手を少し入れさせていただきました。お二階も、あまり広くはないんですけども、とてもすてきな

和室のお部屋が二間ありますので、ぜひ活用していただけたらと思います。

以上です。

○司会

ありがとうございました。市の魅力についてというテーマで、今30分ちょっと経過したところでございます。発信する内容だけではなくて、発信方法につきましても何かご意見がありましたらお願いいたします。

○市民D

発信方法もこの後言うんですけど、先に魅力のほうの話もちょっとしたいんですけども、まち・ひと・しごと創生総合戦略の委員会の資料をちょっと見てきたんですけど、若年層の転入、移住、転出抑制だとか子育て世代の住みやすさの向上ということがシティプロモーションの課題として挙げられていると思います。それで、そういうことを考えると、観光資源をどんどんアピールしていくということも大切なんですけれども、若い人、学生さんがこのまちは多いですね。その学生さんが、もうこの辺に住んではいるけどまた出ていってしまうということがあると思うんですよ。なので、どちらかという、もうここにいるんだけどこの住み続けたいと思う動機をもうちょっと促進したほうがいいんじゃないかなとちょっと思うんですね。それで、例えばなんですけど、ふだんから感じているのは、小金井ではわりと個性的なおいしいお店だったりとか、ちょっとこだわりのお店だったりとか、飲食店に限らずそういうお店が結構多いと思うんですよ。そういうお店が若い人にとって行きつけのお店になったりとかすると、このお店があるから引っ越したくないと、このお店じゃなきゃ自分は満足できないというふうになれば、引っ越ししないでずっとここに住み続けたいという動機づけになるんじゃないかなと思います。例えば、ないもの探しよりはあるもの探しということもあると思うんですけど、今あるものをもう少しもっと生かす政策というのをお願いしたいなと思っていて、例えば、駅前とか再開発地区なんかで、今は結構、家賃が高くて、新しいこだわりのお店を出したいなと個人の方が思っても、なかなか出せないと思うんです。なので、例えばですけど、そういうところに個店が入っていけるような

補助だとか仕組みだとか、そういうことを考えていただいたりだとか、あと、そういうところじゃなくても新規にお店を出すという場合に、今は例えば自分のキッチンでお菓子とかをつくっていてお店を出せないけど、ほんとはお店を出したいけどお金がないという場合に、もうちょっと気軽に出せるような仕組みだったりとか、そういうことをちょっと考えていただきたいなということです。

続けて発信方法のほうなんですけれども、今、千葉縣市川市では、フェイスブックページを市役所で発信しているんですね。その内容がかなり充実していて、本文とかもかなりちゃんと取材して書いてあったりとか、写真とかもかなりふんだんに使われているんですけれども、その中で例えばこういう座談会だったりとか市の説明会だったりとか、そういうことの告知もできるし、あるいは観光案内的なこともできるし、今はマロン通信だったりとか観光まちおこし協会がやっている事業でそういうことはやられていると思うんですけど、そういうところの発信がなかなか全体に行き渡らないというか、市の発信がちょっと足りないというか、ツイッターはあるんですけど、なので、フェイスブックでもうちょっとそこら辺を強化して、ほかの紹介と連携をとって、例えばマロン通信の発信をフェイスブックでシェアするだとか、そういうこともできるわけですね。なので、ぜひ、フェイスブックとかSNSの発信をもうちょっと強化してほしいなということが意見です。

以上です。

○司会

ありがとうございます。今、まち・ひと・しごと総合戦略委員会の話を出していただきましたが、本日ご参加の方々は皆さんその資料をご存じないかと思いますので、今おっしゃられた部分の特徴的なところだけご説明いたします。本市の転入転出の状況でございます。転入の状況を年齢別に見ますと、20歳から34歳の転入が多いことが本市の特徴となっております。特に、20歳から24歳におきましては大きく転入超過となっております。一方で、転出の状況を見ますと、25歳から29歳の転出が最も多いという状況でございます。今おっしゃられた方のように、大学が多い関係で若い世代は大学にいらっしゃ

るんですけれども、卒業されると出ていってしまうということで、この年齢層の方の転出も大きくなっているのが特徴かなというところでございます。今、学生アンケートをとっていても、先ほどおっしゃられたとおり、お店の情報ですとかそういった地域の情報があればもう少しツイッターを見るというような意見もいただいているところです。ただ一方で、行政としては特定のお店の宣伝ができないというのが難しいところで、その辺がうまく、地域ですとかこういうものがおいしいとかいうのを固有名詞なしで紹介できるといいのかなというのも担当としては思っているところです。

それから、SNSの強化というお話もいただきました。その中でマロン通信のお話も出ましたけれども、関係団体であります観光まちおこし協会なんかとの連携というのも1つあるのかなと思っております。ただ、SNSにつきましては、本市は今ツイッターを活用しているんですけれども、内部的な状況を言いますと、今まで情報システム課という情報システムを管理している部署でやっていたのを、今年度から広報秘書課という広報部門のほうに所管がえしたところがあります。なので、まずはこの所管がえに伴って、今まで使い切れてなかったツイッターを強化させていただきまして、それが一定程度できるようになってからほかのほうにも手を出したいなというのが担当としての状況でございます。

では、これにつきまして市長のほうからも何かあればお願いいたします。

○西岡市長

貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。若者や若い世代、ファミリー世代の定着ですよ。私も小金井のまちで育てていただいて、このまち小金井をついの住みか、最後まで住み続けるまちが小金井市だと心に決めて生きてきましたけれども、そういうふうにとくさんの方々に思っていたきたいなと思っております。シティプロモーションもその一環です。もちろん行政としてもさまざまな課題に取り組みなければいけません。特に学生の定着というご提言をいただきました。若い世代ですね。おっしゃるとおりで、大学に入学して地方から来られて小金井市のマンションやアパートや寮に住まわれたりしている方々も大勢いらっしゃいます。こういった方々が就職したときに、引き

続き小金井に住んでもらえたらというのはいつも思っていますし、その分野も大事な取り組みです。また、小金井市の魅力は、味の魅力も当然あると思います。また、人とのつながり。友人だけではなくて、お店であったり地域であったり、若者、学生が学校の中だけではなくて、地域で人やさまざまな文化とつながっていくということも大事なことかなと思っています。ですから、私も今、大学との連携を一所懸命進めているのは、たくさんの目的がありますけれども、学生さんたちに小金井市のまちづくり、人づくり、教育や未来づくりに向けて力をかけてほしいと思っています。いろんなことに取り組んでいます。広報のビデオもつくってもらいました。プロモーションビデオも若者に。それから、あまり知られてないんですが、東京学芸大学のラクロス部ですね、100人ぐらい部員がいるそうですが、小金井市と協定を結んでいまして、小金井の公園をきれいに清掃してくれているんですね。それから、野川クリーン作戦という、年に1回、野川をきれいにする清掃活動をやるんですが、今年は東京学芸大学のサッカー部の方々が自発的に、インターネットかSNSで、こういうクリーン作戦があるというのを彼らが知りまして、自分たちで申し込んできて、60人か70人ぐらいいましたかね。ユニフォームを着て、きれいに清掃してくれました。キャプテンとは私も知り合いになったんですけれども、学生、皆さんには、アジア文化、それから地域とのいろんなつながりを持ってもらいたいと思っています。ここはまだまだ深掘りできる可能性の高い分野だと思っていますので、努力したいと思っています。もっとたくさん、中には本当にいろんな分野で協力している大学生の方が大勢います。東京学芸大学は将来学校の先生になる大学でもありますし、臨床心理士を目指すような大学院もあります。そういった大学生と小金井の公立小中学校の子どもたちのつながりもこれまで結んできました。そういったことで、今ご指摘いただいた若者がもっと定着するようにという動機づけをしっかりと取り組みたいなと思っています。

また、お店を出したい。駅前の家賃は高いし、新しく再開発したりするところではなかなかお店が持てないので、お店を持ちやすいような制度をつくってほしいという政策のご提言もいただきました。ありがとうございます。まだまだ不十分なんですけど、小金井市にもKO-TO（コート）という起業家を支援する、とても安く借りられるシェアスペースや個室が東小金井の下にあります。

入居者がとても多くて、また事業者の方が独自にKO-TOという民間のそういったものを出していただきました。あれは1つの例として参考になるかなと思います。こういった取り組みはこれからも進めていかなければいけない。

また、あまり知られてないんですけども、東京農工大学の中にベンチャーコートというインキュベーション施設がありまして、これは、バイオであったりAIであったり最先端の技術を、農工大の工学部が保有している知的財産や学校の先生や研究、こういったものを起業、業を起こすビジネスとして生かしていくそういう施設がありまして、ここは通常よりも、小金井市が家賃の補助をしています。そこで会社の起業を支援する、これはたしか5年か3年、いくつかの基準があつて、ある年度を迎えると出なければいけないんですけども、これまで26社の方々がここから巣立ち、実際に開業して株式会社をつくったり、世界に羽ばたく研究をビジネスに活かしている方々がいらっしゃいます。こういう施設もあります。もっと気軽にということをおっしゃっていると思うので、そういった視点はこれから大事にしていこうと思っています。

SNSについては、今、担当からお話がありました。私も市長に就任して間もないころ、あれはたしか庁議だったと思いますが、小金井市は情報発信が弱すぎる、脆弱だ、もっと頑張ろう、頑張らなきゃだめだということ forcefully 宣言しました。それからツイッターについては、少しずつですけども、今写真を活用していろんな情報発信できるようになってきましたが、各部や課の各担当レベルで、広報の係だけが全部を網羅するのは難しいので、各課ごとに、現場をよく知っている人たちに情報発信を頑張ってもらいたいなど、そういう組織を目指していきたいと思っています。観光まちおこし協会や商工会の方々、商店街の方々との連携を強めて、SNSの分野でももっとそういったところの情報を小金井市としても発信できるように、これから検討していきたいと思っています。まだ小金井市はあまりリツイートとかができてないですね。ですから、そういった情報の拡散についてのあり方というのをこれからさらに進化していけるように、新たなフェイスブックページの開設も含めて前向きに検討していきたいと思っています。

以上です。

○司会

ありがとうございました。それでは前半の……、どうぞ。

○市民E

小金井の魅力を発信するためには、他市、東京都のいろんなところから小金井市に足を運んでいただくというのが一番だと思うんです。そのために、これはもしかしたら市長さんのお仕事の範疇ではないかもしれないのでごめんなさい。大型のバスが、ほんとに数人しか乗ってないようなバスが走っているのを見てですが、C o C oバスはとても混むんですね。若い方たちもC o C oバスを利用する。例えば、吉祥寺、三鷹、武蔵境、武蔵小金井、国分寺というのは、西武線、それから府中のほうの京王線というので、縦というんですか、とても発達しているんですけど、どうしても東小金井が、私、60年前に東小金井に来たときにはチベットみたいな感じだったんですが、今ほんとに発展して、ありがたいとは思っているんですけど、若い方たちももちろんそうですけれども、年とった人たちが他市から小金井市に来てくださるのには、小さなバスが、ほんとに路地も通るような、そんなふうにして、市長さんが、これはもしかしたら、京王バスとか小田急とかはもちろん、連携者の方たちの思惑もあるでしょうけれども、何か小金井市が発信するために交通網を便利にしていただけたらなと思います。

○司会

ありがとうございます。市の交通網ということになりますとコミュニティバスが挙げられるかと思いますが、そちらについて市長のほうから何かあればお願いいたします。

○西岡市長

小金井市の魅力を高める1つの方法として、小金井市のアクセスをよくするというんでしょうか、交通網を便利にするということですよ。これは若者だけではなくて、高齢者の方々にもそういう願いがあると思います。C o C oバスにつきましては、C o C oバスを導入して今年で15年目、来年16年目を

迎えます。そしてその途中、JR中央線の開かずの踏切、昔は小金井は開かずの踏切、開かずの踏切が全国にとっても有名な現象でしたね。これは解消されまして、三鷹～立川間の高架線が9年前に実現しました。今のC o C oバスというのは、開かずの踏切を大前提とした路線なんですね。ですから南北の路線がないんですね。ですから貫井南町のあたりから、例えばたてもの園や体育館に行くときには、対角線を結んで、小金井は4キロ、3キロのコンパクトなまちではありますけれども、しかし、直通がないという声はありましたし、私もそう思います。C o C oバスにつきましては、今、総合的な見直し、全面的な見直しの過程に入りました。まず1つは高架線になったということ、それからこの15年間でいろいろなまちづくりが進んできたということ、それから公共施設のさまざまな移転や集約化、庁舎や福祉会館も含めて、蛇の目跡地の建設を計画していますけれども、公共施設の位置の集約化もあります。いろんな意味で、あれからもう15年たちましたので、あと4年後ぐらいを見据えて、C o C oバス誕生からおよそ20年たったところで、路線全体を見直して新しい路線づくりをめざそうと、新しい路線が実現できるように頑張りたいと思っていますし、また、Suicaが使えるようにですとか、いろんな要望があります。短期的にできること、中長期的にやらなければいけないこと、また、中長期的にしかできないこともあるので、うまく分けて対応したいと思います。難しいのは、今、1路線だけ、ワンボックスカーのようなミニC o C oバス、南小の地域のほう、前原町二丁目、一丁目あたりを回って帰ってくるというルートがあるんですね。当時は小金井警察署はあの路線を認めていただいているんですが、これは警察との調整が結構大変なんですね。対向車が来たときにちゃんとすれ違えるかとか、あまりにも狭いところを通してしまうと交通事故などの危険性などが高まるのではないかということ、もろもろございまして、このミニC o C oバスを新しいルートで走らせるということについては、とても難しい困難な作業になります。今ある路線は大丈夫なんですけど。これは今後の検討内容にさせていただきたいなと思っております。

○司会

では、次の方、手が挙がっておりますので。

○市民F

魅力もいっぱいあって、魅力もお話ししたいんですが、皆さんいろんなことが出てきたんだけど、私は今日ここに出席したのは、魅力でなくてほかの問題でぜひ提案したいと思って来た。

○司会

そうしましたら、後半のフリーテーマでお時間をとりますので、じゃあ先はこちらの方から。

○市民F

では、そのテーマに入ってから話します。

○司会

はい、お願いします。

○市民G

情報発信の方法について1つお願いがあります。先ほど動画を見ていたんですけども、字幕がなかったんですね。私は聞こえない立場ですので、やはり、字幕をぜひつけていただきたいと思います。ぜひお願いいたします。

○司会

ご意見ありがとうございます。今回の動画にはちょっと間に合わないんですけども、今後、そういった際には配慮させていただきたいと思います。市長のほうから何か。

○西岡市長

今後、配慮、努力します。

○司会

それでは、あと3分ほどでフリーテーマに切りかえようと思いますが、いかがでしょうか。

○市民F

魅力について。私は小金井に来てちょうど50年になります。まだヨシというかアシというか、あれが川っぷちに人の背丈ぐらいのときに引っ越してというか土地を買ってやってきたんですが、自分がどこにいるかわからないみたいなアシの草の中に入って、私のうちどこですかみたいな感じで笑われたことがあったんですが、それから50年たちました。

住んでいる場所は南小学校のそばですから、くじら山に歩いて1分というところで、すばらしいところで、この間、はらっぱ祭りというのがあって、これは30回目ぐらいなんですけど、途中ちょっと問題があって休んでいたんですが、また催行して、今回は110軒、屋台とかいろんな思い思いの家ができて、ここでお酒の販売をしたり外国のワインやビールを販売したり何か食品をつくって販売して、もうとにかく若者たちがいろいろ、楽しい自分の思い思いの、もうかるとかもうからないに関係なくやって、すばらしい催しで近傍近在から、小金井の野川公園にもものすごい楽しいことがあるというので、もう何万という人が来たと思います。すばらしい。そのときにいろいろ小金井の情報発信もできるんじゃないかと思って、また来年もその催しがあると思うので、一部の企画の人がやっているみたいなんですけど、そこに便乗して大いに宣伝するということがあるといいなと思います。

野川公園はほんとに大自然の、何も特別なものがなくて、自然だけの公園です。あそこで保育園の子どもたちが遊び、小学校の子どもたちが遊び、池があって魚釣りをしたり、ザリガニをとったり、あんな魅力的なところはないと思うんですが。今朝も、私、何十年も朝6時から7時までウォーキングをしているんですが、たくさんの方が野鳥観察したり、その観察している画面を望遠鏡のところみんな歩いている人へのぞかせてくれたり、鳥の鳴き声を録ってこれは何の鳴き声なんだって教えてくれたり、また植物が季節ごとに、その日その日に変わるぐらいに花も開花して変わっていくんですが、今、紅葉が、まさにもうこの二、三日、紅葉の最高のところでないかと思うので、あんまりあつ

ちのほうに足を進めない人たちはぜひ、この朝、早朝、あの景色のすばらしさを、小金井市の魅力だと思って満喫してほしいなと思います。案外、北のほうの人は、小金井公園は知っているけど、野川公園とか自然公園は知らないという人が多いんですが、あんなすばらしいところはないというふうに私は思うので、もっと宣伝してみんなに見に来てほしいと思います。

○司会

ありがとうございます。今、はらっぱ祭りですとか野鳥観察のお話もいただきましたけれども、野川公園、武蔵野公園、あの周辺の周知が足りないのではないかなというようにお話かと思しますので、今後参考にさせていただきたいと思います。市長のほうから何かありますか。

○西岡市長

私、南小学校を卒業させていただきましたので、十分理解しています。

小金井に住んでいる方々に、小金井のいろんな場所を知ってもらいたい、これはもうそのことに尽きますね。ですから、いろんなイベントがあります。そういったイベントにも参加してもらいたいですし、観光まちおこし協会の方々も、観光案内人といってガイドさんを一所懸命育成してくれています。まちを知る、まちを歩く、まちの歴史を学ぶ、こういうことってとても楽しいと思います。小金井市の市団体だったり市民参加の方々がいろんな取り組みをしてくださっています。今もお話があったように、やはり情報発信が大事だなと思っています。いろんな企画が行われていますよね。ですから、そういったことをもっともっとPRしていく努力をしなければいけないかなと思っています。確かにこれから紅葉ですね。今日の午前中、玉川上水の名勝小金井桜の落ち葉拾い大作戦というのに参加してきて、子どもたちと落ち葉を拾ってきました。ものすごくたくさん落ち葉を拾ってきました。回収してビニール袋に入れてきました。その帰りに浴恩館公園に行ってきました。あそこは下村湖人が次郎物語の第5部を書いた大変すばらしい由緒ある場所です。あそこにバーベキュー場があるんですね。あそこでは市民の方々が燻製のサークル、自家製燻製をつくってとてもいいにおいが充満していて、そこに秋の紅葉の木々があって、何

かとてもいい雰囲気でおいしいにおいと紅葉とがいいところだな、と。残念ながら空林荘は焼けて消失してしまいましたが、本当に素晴らしい場所があります。栗山公園もバーベキュー場がありますし、小金井公園には最近手ぶらでバーベキューなんて、ほんとに手ぶらでできるそういう施設もあります。公園の中でバーベキューができるってとても楽しいことですよね。武蔵野公園もバーベキュー場があるし。こういう自然とマッチしたいろんな企画、イベントというのを小金井市は大事にしてきましたので、これをもっともっとPRしたいなと思っています。ちなみに、来年の桜祭りは、桜の開花が大分早くなってきていますので、正式に、今まで4月の第1週の金土日、最近は土日開催だったんですが、もう3月の最終の土日に変えることになりました。今年は桜祭りは大変な人で、お花の開花状態とお天気といろいろなマッチしているのはなかなかないんですね。桜祭りって、もう最初から日にちを決めていますから、桜が咲く状況に合わせられないんですね。今年はすごくマッチしまして、ものすごい人。私も25年間ぐらい毎年桜祭りに出てますが、あんなにたくさんの人を見たのは初めてです。主催者発表ではたしか22万人とおっしゃっていましたので、すごいたくさんの方々に来ていただけたなと思っています。

以上です。

○司会

ここで一旦整理をさせていただきたいと思います。市の魅力、あるいは情報発信についてのご意見がある方まだいらっしゃいますでしょうか。じゃあ、この方を最後で、この後はフリーテーマということで。もちろん、フリーテーマの中で市の魅力についてお話しいただいても構いませんので、よろしく願いいたします。

○市民E

じゃあ、一言だけ。その後はまた後でお話し申し上げたいと思います。

私、大連で育っております。それで、終戦ぎりぎりに日本へ帰ってまいりました。そして2年前に小金井市に引っ越してきました。第一印象を申します。大連にそっくりなんです。ですから、ぜひ雄大なまちに築き上げていただきました

いと思います。

○司会

ありがとうございました。

それでは、ここからフリーテーマにさせていただきたいと思います。何かご意見ある方。それでは、初めての方から先をお願いいたします。

○市民H

私は10年以上前から生ごみ処理をやってきてまして、いろいろなことに出会ってます。しばらくしてから野菜づくりを主体にやっています。野菜づくりをやると微生物、地球の生命体は微生物によって支えられていると言われてますが、我々の体、60兆個の細胞があるんですけども、微生物、我々の体にいくつぐらいいると思いますか。1,000兆個ですよ。細胞より多いんですね。最近のノーベル賞をもらってるあれなんか、ほとんど微生物の活動によって正常に機能しているとうまくいくとか、あるいは免疫が強くなるとか、そういうようなことに関係しますので、やっぱり我々の健康というのは微生物との関連で見ると非常にわかりやすい。特に生ごみで野菜づくりをすると、微生物を増やして、微生物が野菜をつくっていったる。肥料じゃなくてね。そうすると、九州のほうでこれを提唱しているところでは、幼稚園の生徒が、それと食育と両方あるんですけども、通常、年間6~7日休んでいた人が、こういう活動をすることによって年間1日いかない、0.6日か0.7日ぐらいしか休まないという非常に健康になっている。それだけ微生物で健康に育てた、要するに土に腐敗がなくなってるんですね。発酵体質の土にしてやると微生物が発酵体質の野菜をつくってくれる。そういう発酵体質の野菜を人が食べると非常に健康になるということですね。だから、単なるごみの減量にとどまらず、ぜひそういう活動を広げていただきたいと思います。午前中ちょっと今までやってたやつから資料を集めて文章をつくってきたところなんですけれども。だいたい、植物、我々、世界の細胞というのは全ての生物ほとんど同じなんです。食べ物は全部植物がつくってくれる。動物は直接間接的に植物のつくったものを食べているわけ。動物の主たるあれは、人間の場合は腐ったものはあんまりよく

ないんですけれども、ほとんどの動物は腐ったものをきれいにする役割がある。だから、野菜に虫がつくのは腐った野菜を食べにくるわけですよ。で、虫がつかないように農薬をかけますから、ますます不健康な野菜になると。だから、そういう野菜を一生懸命皆さんが食べさせられているから、どんどん変な体の人が出てきたということになってるわけです。土の中だとミミズがきれいにしてくれますね。だから、野菜だと腐ったら虫が食べてきれいにする。土の中ではミミズとかそういうものが食べてきれいにする。ミミズがいると、そこにモグラがやってくる。モグラがいると、さらにそこにいろんな動物を食べにやってくると。こういう循環になるわけです。それから、生ごみにはカラスがやってきますよね。このようにほとんどの動物は腐ったものをきれいにして、地球環境をよくするようなことにできてるわけ。植物は、まず溶岩なんか流れたところに草が生えて、土をよくするように。とがった単子葉類の草はまだあんまり栄養がよくないところに生える。栄養がよくなってくると丸い葉っぱの双子葉類になってくるわけですね。このように生ごみで野菜をつくるといろんなことがわかってきます。じゃあ、これをどうやって小金井でうまくやっていくか。小金井では乾燥堆肥のリサイクル堆肥というのをつくってまして、これは完熟堆肥といって、ほとんど腐らない状態になってますので、素人でも使いやすくできてます。だから、このリサイクル堆肥を使っていろんな家庭で野菜づくりを一生懸命やってもらうようなことを市でお願いしていただきたい。特に野菜でも1回収穫したら終わっちゃうというんじゃなくて、何回も摘み取れる菜の花科の野菜とか、そういうような何回でも収穫できるような野菜を育ててやると、プランターでも結構いい。もう一方は、学校のほうで、今、自然環境が非常に悪くなってますので、いかに自然と共生させていくかということ、生ごみでの野菜づくりをやってもらって、そういうさっき言ったような微生物の働きのある、それぞれいろんな人、子どもさんがそれを感じてもらおうと。それで、そういうのをある程度理解したら、第二ステップとして地域で、当日とか前日出た生ごみだけを何人かが持ち寄って、それを、ぼかしという発酵剤があるんですが、それにまぶしてやって土と混ぜてやると分解して、土にある程度微生物が多いのが前提ですけれども、3日間でだいたい脂肪とかタンパク質は大体分解されるんですね。土が非常に暖かくなります。そこで1回混ぜてやっ

て、7日後、さらに1週間後、1週間後とやると、二、三週間で生ごみが見えなくなっちゃいます。さらに夏だったら1カ月、冬だったら二、三カ月放置してやると腐敗が一切なくなります。そうすると非常にいい野菜ができるようになります。こういう形でやると。

○司会

生ごみ処理と野菜づくりということで、もし市長のほうから何か。

○市民 I

いや、こういうことをやって、小金井だけじゃなくて全国に先駆けて、本当に地球環境を守るような、そして、こういう農業を若い人がやって、全国に広げていただけるような、そういうものをつくっていただきたいということなんです。

以上です。

○西岡市長

ありがとうございました。大切なテーマです。小金井でもごみの減量の一環として、生ごみ処理機を購入された場合、上限はあるんですけども、補助制度をずっと継続して取り組んでいます。また、各小学校、中学校にも大型の生ごみ処理機を設置してございまして、昼食残渣を堆肥にしたり、あるいは夏休み期間中には市民の方々にも投入していただいております。で、その管理を地域の町会自治会の方々にボランティアで、暑い夏、毎朝、現場で回収していただいています。そして、そのときにこの生ごみ処理機でできたいわゆる堆肥を配布して、ご自宅で家庭菜園やプランターなどで野菜をつくっている方々に活用していただいております。この取り組みをもっと拡大すべきだし、もっと多くの方々に取り組んでほしいと、こういうことだと思いますので、とても貴重なご意見です、私どもとしてもそうなるように努力しますが、市民の方々にこの生ごみ処理機でできた堆肥を利用してもらうことやこういった取り組みを理解してもらえるように努力をしてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

○司会

ほか、なるべく今日初めて発言される方を優先したいと思いますが、いかがでしょうか。

○市民 I

いつもいつも、いろいろと協力いただきましてありがとうございます。お話ししたいことが4つあります。

先ほど小金井の魅力というテーマでお話がありました。ほかの市外の人が小金井に来たときに、駅前で、看板というか地図がないですよね。小金井のここに行きたいという道順とか歩き方とかがわからない状態ですよね。桜町病院に行くにはどうやって行ったらいいのか聞かれたりするときもあります。この道をまっすぐ行けば行けるんですよ、そこにバス停があるからそこから右に曲がってくださいなどと言って説明をしたりします。とにかく駅前に地図がないために、こういうチラシはあったとしても、皆さんにこれを配るよりは、まず地図の看板を設置して、そこに小金井市の魅力を、神社があるとかいろいろとそこに紹介文なども一緒に書いて、地図の方向とかも表示していただければ、若い人も高齢者もこれを見てわかった、そっちのほうに行こうというふうにするのではないかと思います。

2つ目です。市役所の説明会、5回ぐらい、新庁舎、新福祉会館の説明会があったと思います。私も1回ほど参加させてもらいました。皆さんの質問とか要望とかはどのような方法でまた改めて報告という形があるのか、それが知りたいです。市長さんの考え方などもお聞かせ願いたいと思います。これからどういう方向性で進んでいくのかというのを知りたいと思っています。また、たくさん資料をもらっても、ほんとに字がちっちゃいんですよね。ちっちゃ過ぎてなかなか読めないんです。ですので、資料なのに字が読めない、文章が読めない、そういう資料はどうでしょうか。わかりやすい資料を要望したいと思います。市役所、新庁舎、新福祉会館についても、今の市役所はリース庁舎ですよ。今までリースで借りてたお金はずっと積み重なってきてると思います。それについて市長ほか職員の皆さんもどういうふうを考えていらっしゃるんでし

ようか。そのあたりをお聞かせ願いたいと思います。

先日10月1日に障害者差別解消法がスタートしました。いろんな条例が施行されている中で、まだ情報発信が足りないと思います。市報の一面に載せるとか、小平市の場合は、ほかのいろんな市とか区の場合には、聞こえない人の手話について載っていたりとか、ほかの障害、見えない方の障害のガイドの方法について載っていたりとか、そういう文章が載っている。ここは実際に説明会がありますというのが載っているぐらいなんですよね。もっと市報を有効に使って、皆さんに理解していただく方法も考えていただきたいと思っています。

以上です。

○西岡市長

それでは、6問ぐらいいただきましたので、時間が大分迫ってきましたので、少しコンパクトにお答えさせていただきます。お許してください。

駅前にもっと地図があったらいいですねということ、よくわかりました。貴重なご意見として承ります。ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。ちょっとした地図はあるんですけども、場所とかもっと露出したりとか工夫も必要かなと思います。まだまだ十分伝わっていないということも含めて、ご意見として承りました。

それから、今取り組んでいる新庁舎と（仮称）福祉会館の関係でございます。まず、市民の方々からのご意見は常に聞いています。市議会の方々からもご意見をいただいています。これから基本設計に入っていくこととなりますと、具体的な設計が行われることとなりますから、この段階で市民の方々のいろいろな要望や声を詰めていくということとなります。また、適切なときに説明会や意見交換会、また、こういった市長と市民との座談会の場も含めて情報発信をしていく、あるいは市報こがねいなども活用するなどして、今後の進捗状況は丁寧にお知らせしていきたいと思っています。そして、市民参加で設計を進めていくべきものだと思いますので、またそういう会が行われるときにはぜひご参加してください。それから、資料の字が小さいなどのご指摘をいただきました。すみません、行政がつくる資料って、どうしても伝えなきゃいけない

ものがあるので、それがどうしても小さくなっちゃうという。ほんとにここは私も悩んでいるところなんですけれども、申し訳ございません。ただし、今日用意していませんが、例えばパワーポイントという映像を使ったり、パワーポイントでつくった資料を配ったり、なるべくわかりやすいような資料、ポイントを絞って資料を配るなど、これはどんな説明会でも、どんな意見交換の場でも、わかりやすく見やすいという工夫は絶対必要だと思っていますので努力します。ただどうしても、これは絶対伝えなきゃいけないんですが、量が多くて、法律の条文とか、書かなくてはいけない時、資料によっては本当、申し訳ございませんという資料があるんですね。どうかご理解いただきたいと思います。努力します。これまでに第二庁舎の賃借料などでどれぐらいかかったんですかということです。今、手元に資料がなくて申し訳ございませんが、あれは平成5年からスタートしたと思います。今26年目だと思うんですね。それで、この間に賃料と、それから駐車場もお借りしているんですね。それから管理費というものもお支払いしているんですね。少なくとも総額で60億円近くはずっと小金井市は賃借料などをお支払いしていたと。今、手元に細かい数字がないもんですから申し訳ございません。この後どうするのかということですが、私の考えは、この間ずっと申し上げてきたのは、庁舎建設予定地に新庁舎が竣工され、そして移転・引っ越しが行われます。そうしますと今使っている施設は空きますので、私はこの第二庁舎は市として使うことは考えておりません、所有者の方に返還するということになります。そうしますと、今は小金井市がお借りしているわけですが、民間の所有している土地と建物になりますが、今後は行政としての利用は考えておりませんので、所有者の方の考えのもとに何らかの形で有効活用されるものと思っています。

以上です。

○司会

発言がまだの方を優先したいと思います。じゃあ、もう時間が限られておりますので、初めてのこちらの方とそちらの方お二人で終わりということにさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市民F

どうしても言いたくて来たんだけど。番が来なくて、言わないで帰るのはちよつと……。

○司会

じゃあ、まず先に発言が初めての方から。

○市民J

今日、元気なおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいらっしゃったんですけども、まず思うのは、多分この中で年齢が一番低いのは私とかもう一、二名の方かなと思うんですけども、なぜ若年層、いわゆる小さいお子さんだったり小学生のお子さんをお持ちのお父さん、お母さんがこういう場に来ないのかを考えたほうがいいと思います。おじいちゃん、おばあちゃんたちは来るのに、一番定着してほしい年齢層がここに来てない。これを市長だったりとか行政の今いらっしゃる方だったりとかどういふふうに捉えていらっしゃるのかなというのをお聞かせください。お願いします。

○西岡市長

ありがとうございます。小金井市としていろいろ説明会や意見交換会や、こういう場のみならず、たくさんテーマで頻繁に開催しています。ご指摘のように若い世代やファミリー世代の方々にもっともっと参加してほしいといつも常々思っています。若い世代の方々には、もちろん学校現場であったり子供会であったりいろいろな場所で活躍・活動され、そして学校の中などで保護者会などを通じていろんな意見を聞いていただいていますし、いろんな対話をしていただいています。でも、私の今開催しているこういう市民と市長の座談会という場もぜひ活用していただいて、子育てのことでありますとか、今悩んでいることでありますとか、あるいは小金井市がこういうまちになってほしいとか、子どもたちの未来のためにこういうまちづくりをしてほしいとか、そういう声をたくさん聞きたいと思っています。でも、なかなかお越しいただけないというのは、やはり何か原因があると思っていますので、それは情報発信だけでも

なく、なので、私もなるべく来やすいようにということで、この市民と市長の座談会も、今日は珍しいですね、この萌え木ホールを使うのは。いつもマロンホールだったり上水会館だったり貫井センターだったり、なるべく来やすいようにということでいろんな地域をめぐってまいりました。開催される時間とかもあるんですかね。三連休の真ん中の土曜日のこのような日中の時間帯というのは、やっぱり皆さんお出かけしたり、なかなか来にくいんですかね。来やすいようにということで保育も用意しているんです。私が市長になってから、こういう会的时候は必ず保育士さんに来てもらって、子どもが預けられるようにという工夫をしているのと、それから、今も一所懸命、頑張っているんですが手話通訳者の方々にも来ていただいたり、いろいろ工夫はしているんですね。でも、なかなか若い世代の方々に来てもらえないというのは、多分、市政への関心もあるんじゃないかと思うんですね。でも、日々生活をして暮らしていくわけですから、当然のことながらいろんな要望や不満や不便に思っていることや改善してほしいことって絶対あると思うので、これから、そういう方々の声をもちろんいろんな方法で聞くようには努力しているんですけども、こういう意見交換会に来てもらえるようにするためにもっとどういう努力をしたらいいのかということは考えたいと思います。ご提案があったらお聞かせください。

○司会

ありがとうございました。では、そちらの方。

○市民K

何か、市長を目の前にするとふさわしい質問かどうかって。ちょっと言うのが遅くなっちゃったのかもしれないんですが、今年の8月ぐらいに、その再開発のまちの愛称募集が市報でやっていたよね。おやっと思ったんですね。その前に、その再開発に市がどういう関与をしているのかというのがわからなくて、私の情報収集の仕方が悪いのかもしれないけれども、あんな大きなものがぼこっと建って、湧き水だ何だって、まとまった湧き水が断絶されちゃうだろうし、緑や水のとかいうのとは全然違う方向にああいう施設ができてる。そ

れに対しては市のほうでどういう管理、市は許認可してるわけですから、何かもうちょっと市民に対する、パトロンになったのかどうかわからないんだけど、いろいろ水面下であったと思うんだけど、それも伝わってこなくて、いつの間にか、気がついたらどんだんどんどん大きくなってしまってますね。こんなことを言うのはちょっと私自身、今ごろ何を中途半端なことをと思われちゃうかもしれないんですけど、で、そう思っている矢先に、8月にネーミング募集って。すると、やっぱり市はこの施設のあれにかなり重たくかかわってるのかなと。それのところが不思議で、で、あの中に何か市の魅力的な施設ができるのかと思ったら、どうもそうでもないらしいと。それを発信、さっき情報発信ということも言われて、その中の1つになるかもしれないんだけど、ああいう建物ができて市民にどういう影響があって、なおかつ南口の商店街がまたさらに衰退しちゃうのかなとか余計なことまで心配になっちゃうし、もうちょっと市報を使って、例えば市報の臨時版でもいいですよ。あれだけ大きなものが市の中心にできるわけだから、こうだけこういうふうに期待してくださいとか、情報のやりとりとか市民とのやりとりが全然なされてないうちに、どんだんどこできちゃってる。その状態がね、何か不思議。まあ、変な汚染施設ができるわけじゃなくて、前向きに検討されてる施設だと思うから、みんな市民はよしとしてるんだと思うんだけど、それにしても、どういう中身でどういうというのが、もうちょっと市報を主にして、まあ、市報が一番いいと思うんですけどね。いや、そういうことじゃなくて、そういう丁寧な説明が、一般的なレベルでの説明がもうちょっと欲しいなというのをつくづく思いました。

○西岡市長

お時間がもう過ぎてしまってますので、ちょっとコンパクトに答弁させていただいて、その後、最後、Fさんからご質問いただいて終わりたいと思います。

今もあちらに見えておりますけど、大きな高いクレーンがそびえ立っておりまして、26階建て、24階建てのツインタワー、そして4階までが店舗。このまちづくりは、民間による組合方式による再開発事業です。国、東京都、私たち小金井市は支援をする立場でございまして、小金井市も国も東京都も一定

のスキームの中で財政的支援を行っています。また、組合の再開発の方々が行うさまざまな会合には市の担当者も入っておりまして、情報共有を図っているところがございます。私としては、駅周辺のまちづくりは絶対に必要だという立場でこの間ずっとさまざまな活動を続けてまいりました。あそこに716戸の住宅、マンション、そして4階までが店舗でございます。小金井市としてもいろんなこちらからのご要望などはさせていただいてまいりまして、子育て支援関連施設を4階までの店舗の中のどこかに入れていただける方向で今調整をしているところがございます。また、防災などの観点からも、今までの狭隘な狭い木造住宅が密集しているような状態のまちづくりから、ああいった形で高度高層ビルをつくるということになりました。その結果、武蔵小金井の南口にフェスティバルコートという広場ができましたけれども、ちょうどその南側に同じぐらいの面積の広場ができますので、一体で活用されますし、いろいろなイベントなどで有効に活用してもらえれば、これからは楽しみだなど思っている部分もございます。また、このまちづくりの状況ですが、タウンネーミングを公募したのは小金井市ではなくて、再開発組合が公募しました。なので、公募もその選考も、再開発組合の中で選考がなされて、いずれ発表されると思います。マンション名はもう決まっているようで、壁に名称が書いてありましたけれども、あのまちづくり全体の名称、タウンネーミングについては組合事務所、組合として、いわゆる地権者の方々を中心とする再開発組合のほうで公募をかけて今選考がされているということです。それから、市報こがねいに、私、市長に就任してからまちづくり特集号という特集ページをつくらせていただいて、東小金井北口の区画整理事業、武蔵小金井駅南口の再開発事業、それから、この間、約8,500灯ある街路灯を全部LEDに昨年度末にかえました。ですから、今、小金井市内の街路灯は、ごく本当に構造的に難しいものを除いて、99.9%近くは全部LEDだと思っていただいても結構なんです。まちづくり特集号を出しました。私、あれはもっと出してほしいなと思っているので、先日も担当にはこのまちづくりの状況、これから武蔵小金井駅北口のまちづくりも大きな課題になっています。今取り組んでいるものについては、もう少しわかりやすく丁寧に回数もちょっと増やしてまちづくりの進捗状況を伝えていけるようにということで担当とは今話をしているところです。

○市民K

足りないですね、まったく、足りないですね。

○西岡市長

反省しております。

それから、組合の方々にもPRしてくださいとお願いしています。ですから、これから4階までの店舗にどういう店舗が入ってくるのか、そして、できる広場についてはどういう活用方法が可能なのかとか、これから伝えなければいけない情報がどんどん増えてきますので、再開発組合の方々にも、ぜひ市民の方々にまちづくりのPRをしてくださいということをお願いしていて、組合のほうもしっかり受けとめくださっていると思います。

○市民K

全然、でもそれは、今日は市長のそういうことを聞かされてそうかなと思うんだけど、実際問題は何も伝わってこないんだよね。

○西岡市長

Fさん、どうぞ。

○市民F

今日、私はこのことをぜひ訴えたくて来ました。お話しできないで帰るんだったら何のために来たかと思うぐらいなんですが、まあ、皆さんの話を聞いてよかったんですが。実は、小金井市に住んでさつきも50年と言いましたが、30歳のとき来たので、もう80代です。こんな日が来るとは思わなかったんですが、坂が全く上れないというか、男の人と違って筋肉がやっぱり少ないのか、どの坂もほんとに苦しくて上れなくなりました。そして、自転車をふだん乗ってるんですが、まともに乗ってるわけじゃなくて、杖のかわりに押しながら行くんですが、小金井の坂は先ほども段丘のはけの美しさが強調されましたが、あの道は全部、昔は人が歩いて上った道だと思うんです。中村美術館のと

ころだけはジープが通るためにつくったコンクリの道だというんですが、あとは人が上る道だったと思うんです。大体70、80なんていう人は生きてたかなという感じで、今みたいに80、90の人が坂を自転車で上るなんていうことはその当時考えられなかったことだと思うんですよ。それで、人が通る道は、ほとんど真ん中が車の通る道で、一方通行で車が突進してきます。そして、歩行者は、両側にはなくて、片一方にすれ違えないほどの小さな歩道があるのがほとんど全ての小金井の、前原町から坂上に出る坂の特徴です。そこをゆっくりと上がれば上がれなくはないのですが、実はこの間、上からおりてきた30代の若い人に「ばばあ邪魔だ」とか言われて、「ここは歩行者の通る道、自転車なんか引っ張って通る道じゃないんだぞ」って言われて、3人おばあさんたちが自転車を押してたんですが、2人はさっさと逃げちゃったんで、私が、これも歩行者ですよと言おうとしたら、もう手がこんなところまで来てたんで、私もう文句言わないでそのままになったんですが、ほんとにあの歩道が狭い、すれ違えない、そして真ん中は自動車が突進して、排気ガスを出しながら上っていく。これからどのようにして坂上に行ったらいいんだろうか。ちなみに前原町には、田園の裏門にはお店はコンビニが1軒あるだけで、病院もないし、役所もないし、郵便局もないし、何1つありません。全部坂上に行かないと用が足りないという日々なんですね。それでこれから、今、私80代だとすると、90代、100歳までの時代だとなると、20年どのようにあの坂を上っていったらいいのか、電動の自転車を買えばいいじゃないかというけど、電動も、もう筋肉が劣化してるので、倒れたら起こすというのがもうオートバイを起こすみたいな感じで重たい。それから、坂上に上ってきても自転車の置き場がないんです。地下に置くんですが、地下から買い物して上ってくるときに、この筋肉がないから苦しいし、大体自転車を2台、下の段と上の段の、上の段はもうとても乗つけられないんですが、下の段も実は乗つけられないんですよ、力がなくて。このように老人の特徴というものをしっかり知ってもらおうと、これからの小金井のまちづくりも年寄りも多くなることだし、私が怠けていて健康状態が悪いんじゃないかと、しっかり自分の年相応にやっているので、そんな人でも上れなくなるということで、これから市政にぜひとも考えていただきたいと思います。

○西岡市長

会場の時間がもう迫ってしまっていて、申し訳ございません。すぐ撤収しないと、ちょっと予算との関係もあるようですから、以上で終わりたいと思いますが、今、切実なお声を聞かせていただきました。また、Fさんから同様のことはこの間、市長室でも聞きましたので、私の母もカートを押さないと歩けない母で、坂下に住んでいます。C o C oバスをやはりまず1つは市民の方々に活用してもらえるように検討したいと思っています。

○市民F

C o C oバスは、3回に1回は置いていかれます。10人しか乗れないのでね。そうすると、年寄りが中前橋に4人も、あつけにとられてバスを見送るといような日々ですので、C o C oバスは全くあてにはしていません。置いていかれたときの失望感というのが、かえって悔しいので。

○西岡市長

大変貴重なご意見ありがとうございました。

○司会

申し訳ございません。ちょっと進行が悪くて時間が延びてしまいましたが、以上をもちまして平成30年度第4回市民と市長の座談会を終了させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。